

EAR

EAR V12 (写真左)

¥898,000

EAR 834 Custom (写真右)

¥488,000



聴き手のハートを射抜く力強い音。音楽表現が緻密  
 パラビッチーニ率いる英国EARから2機種のパリメインが登場

山本浩司

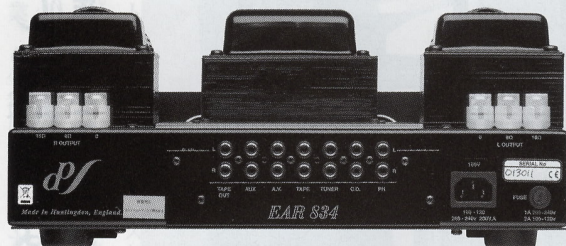
管球アンプの鬼才、ティム・デ・パラビッチーニ率いるEARの輸入元が変り、その記念モデルとしてEAR 834カスタムが発売された。EL34パラレルプッシュアップのA級出力プリメインアンプである。本機は日本限定発売モデルで、仕上げをクロムメッキからブラックフィニッシュに変更し、電源にチョークコイルをフィルターとして使っているのがレギュレーターとの違い。これはわが国の商用電源の電源電圧が100Vと低いためだという。5極管接続の出力段はセルバイアス方式が採られている。

数時間通電した後にポリウムノブを触ると、ほんのり温かい。まずオーディオ・フィデリティ盤CD「スウィート・ベイビー・ジェイムス/ジェイムス・テイラー」を聴いてみたが、ヴォーカルの実体感、声の浸透力の高さがハンパではなく、音楽がすっと聴き手の心に染み込んでくる。今ソコで歌っていると思わせる雰囲気の高さといつたらない。低域端の伸びはさほどでもないが、甘やかなチェロのひびきの豊かさは本機ならではの美点だろう。

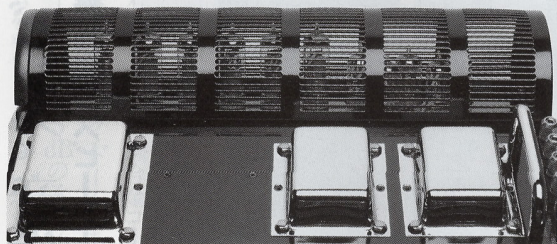
ジョン・クリアリーのライヴCDで聴ける熱のこもった演奏の再現力にも舌を巻いた。バランス的にヴォーカルがぐんとフレームアップされる印象で、その音はじつに生々しい。スラッピングベースのキレとノリのよさも抜群で、5極管接続アンプで危惧されるダンピングの甘さを感じさせない。また、かなりの音量でK2S9900



EAR V12●出力:50W+50W(8Ω、4Ω)●入力感度/インピーダンス:400mV/47kΩ●  
 使用真空管:ECC83×10、EL84×12●寸法/重量:W420×H135×D440mm/22kg  
 EAR834 Custom●出力:50W+50W(16Ω、8Ω)●入力感度/インピーダンス:200mV  
 /47kΩ●使用真空管:ECC83×2、ECC85×2、EL34×8●寸法/重量:W405×H150  
 ×D405mm/20kg●備考:国内限定100台販売●問合せ先:ヨシノトレーディング株式会社  
 ☎050-3375-3975



EAR 834 Customのリアパネル。入力端子はアンバランス(RCA)のみで、ラインレベル6系統を用意。ほかにテープアウトも装備。スピーカーターミナルには樹脂製のカバーが取り付けられている。



チャンネルあたり6本のEL84と5本のECC83を用いるEAR V12。同社が以前発売していたV20(こちらは出力管に計20本の12AT7Aを搭載していた)を彷彿とさせる本機は、クルマ好きのパラビチーニ氏がジャガーXJ12搭載の12気筒エンジンにインスパイアされてデザインしたものという。



### 艶やかで文句のない素晴らしい

を鳴らしてみたら、危なっかしさは微塵もなく、駆動力に關しても不満なし。だ。なにはともあれ、石、球問わずこの価格帯でこれほど音楽的感興を盛り上げてくれるプリメインは他にないのでは、と思う。

同時に試聴したEAR V12は、以前販売していたV20を彷彿させる外観に、EL84を片チャンネルあたり6本、バランスドブリッジ接続したトリプルプッシュアップ構成のA級プリメインアンプ。ツマミの質感とかクローム仕上げの外観がぼくにはアグレッシヴすぎるが、その音は文句なしのすばらしさ。音楽表現がより緻密で彫琢に優れ、その音色にはEAR834カスタムでは得られなかった、艶めいたふくよかさがある。それから驚かされたのが、本機の残留ノイズの少なさ。信号を入力せずにボリュウムを全開にしてみたが、スピーカーからほとんど何も漏れ聞こえてこないのだ。

『エラ&ルイ』(96/24FLAC)のサッチモのトランペットの浸透力が凄かった。834カスタムの風速が1万メートルだとすれば、本機のそれは100万メートルというイメージ。聴き手の心臓を射抜くようなスピード感と強さがある。LPで聴いた『バラに捧ぐ/ジョニ・ミツチエル』にも心底しびれた。オープン・チューニングのアクースティックギターのひびきリアルこのうえなく、ベースのタイトな質感、ヴォーカルの艶かしさの表現などまったく文句のつけようがない。メディアム・グルーヴをこれほど巧く再生するアンプはほんとうに珍しい。パラビチーニ、EAR、ますます快調の思いを強くした。



# EAR

EAR Yoshino Ltd.

## プロトタイプの特長はすべて 「真空管の気持ちになって」私が巻きまます

現代管球アンプ界の鬼才ティム・デ・パラビチーニ率いる英EARの輸入元が、彼の奥様・芳野裕子さんが社長を務めるヨシノトレーディング(株)に変更された。ハイエンドシヨウトウキョウ2011に出席するために来日したパラビチーニ氏にお話をうかがった。

山本 日本語、お上手ですね(今回のインタビュは英語と日本語で)。

パラビチーニ ワイフが日本人ですし、ラックスに勤務していた70年代には大阪に住んでいましたからね。

山本 日本での販売態勢が一新されましたが、新しい展開を具体的に教えてください。

パラビチーニ ええ、いくつかの日本向けの製品を出していきます。834カスタム、V12というプリメインアンプ、それにDACute(ダキュート)というD/Aコンバーターを発売します。CD Acute IIIというCDプレーヤーのD/Aセクションをベースにした製品です。DACチップはウォル

フソン製で、DAC以降は真空管を用いたバランス回路になっています。デジタル入力にはS/PDIFの他、PCオーディオ用に192kHz/24ビット対応のUSB入力を装備させています。

834カスタムは日本限定発売、オリジナルはクローム仕上げですが、なるべく価格を抑えたかったので、ブラックフィニッシュにしました。ノブなどもブラックアノダイズのヘアライン仕上げです。その他オリジナル機と違うのは、電源にチョークコイルを入れたこととです。日本は電源電圧が100Vと低く、ノイズの影響を受けやすいですからね。V12は、クルマが好きなので、V12は12気筒エンジンにちなんで開発しました。バランスドブリッジ回路を用いたトリプル・プッシュプル構成で出力管にEL84を計12本使っています。

山本 バランスドブリッジ回路?

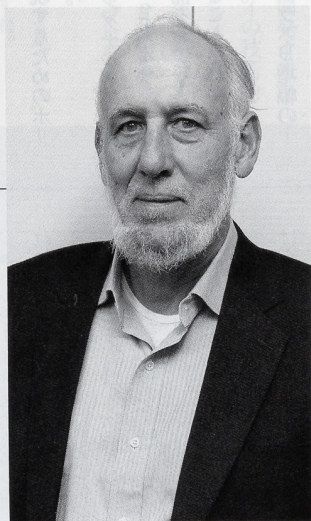
パラビチーニ BTLのことではありませんよ。アノードとカソードをそれぞれの出力トランスの巻線をつなげて

ワイドバンドな特性と高安定性を実現した回路です。マツ

キンツシユの回路に近いといえ近いかもありません。V12はハイリニアリティでフィードバック量が少ないことも特徴として挙げられます。

山本 真空管の魅力って何でしょう。

パラビチーニ その質問の答えは簡単です。超ハイスピードな増幅素子で入力のロスが少ないことです。例えば509で使っている真空管なら100MHzのFM送信が100Wで可能ですが、MOSFETの場合、入力のカソードが大きいと1MHzの送信も無理でしょう。トランジスタは数十mWの小出力なら100MHz伝送が可能かもしれませんが、まだ大出力は無理です。それから管球アンプの音を決定づけるコンポーネントは出力トランスです。ラックス時代からトランスのデ



ティム・デ・パラビチーニ氏  
Mr. Tim de Paravicini

ザインは全部自分で手がけてきました。プロトタイプは「真空管の気持ちになって」すべて私自身が巻いています(笑)。

山本 今後の展開を教えてください。

パラビチーニ 将来、私の息子が新しいブランドを立ち上げてトランジスタアンプを発表する予定です。私の回路設計が活かされることになると思いますが(プロ用などでパラビチーニ・デザインのトランジスタアンプが発売されている)、外装デザインは息子が手がけます。このアンプもヨシノトレーディングで取り扱いますので、ぜひ多くの方に聴いていただきたいと思っています。